

# 戦後における岐阜県小学校の家庭科教育について（第2報）

— 岐阜市立長良小学校における低学年からの家庭科教育の研究と実践 —

山 口 弘 子

## Elementary School Home Economics in Gifu Prefecture since World War II (II) : A Study on the Teaching of Home Economics in the Lower Classes at Nagara Municipal Elementary School, Gifu City

Hiroko Yamaguchi

### Summary

In part I of this report the outline of teaching of home economics in elementary schools in Gifu Prefecture was discussed. In Nagara Municipal Elementary School, Gifu City, as a progressive attempt, home economics has been taught in the lower classes since 1971. This report is an outline of research activities and teaching methods developed during these years at Nagara Elementary School.

*Received April 22, 1986*

### は じ め に

戦後、昭和22年に民主家庭建設のためのよき家庭人の育成をめざして男女共修普通科のかたちで小学校に「家庭科」の新設をみた。しかし、当時は家庭科設置の真意は十分に理解されず、間もなく存廃論が起こりはじめた。昭和26年に家庭科存続がきまってからも、指導要領は2年ないし5年に一度の割合で改訂され、現場の教師たちは新しい「家庭科」の目標や内容が充分につかみきれない状態であった。昭和36年には家庭科の検定教科書がはじめて出版され、学習指導要領の改訂も10年間隔となって、小学校家庭科はようやく一応の安定期に達したものとみられるに至った。この間小学校家庭科にたずさわってきた岐阜県の女教師たちは、家庭科の存続に尽力し、また、家庭科のあり方や指導方法についてよりよいものを目ざしてその研究と実践を試み、めざましい活躍をしてきた。

一方、昭和40年代に入り、青少年非行が急速に問題となり、岐阜県の小学校では低学年からの家庭科に関する研究を行うようになった。昭和50年代にはさらにその研究と実践が広く実施されている。以上のことについては第1報<sup>(1)</sup>にその概略を述べたが、今回は低学年からの家庭科指導については小学校の草分けともいえる岐阜市立長良小学校における研究と実践の経過を、特別活動も含めてたどってみることとした。長良小学校に現在保管されている資料について調べるとともに、低学年からの家庭科教育の位置づけとその研究実践に功績の大きかった岐阜市立長良小学校元教諭・新井規子、その

発展に尽力された西濃教育事務所指導主事・野村令子（昭和51年から56年まで長良小学校勤務）、それを継承して現在長良小学校教諭として実践を続けておられる杉山恵子の諸先生にお会いして直接お話を伺い、それをもとにこの稿をまとめることとした。

## 1. 岐阜市立長良小学校における研究体制の前進と特別活動の研究・実践

昭和42年から昭和45年までの間、岐阜市立長良小学校では吉岡勲氏が校長の任に当たった。氏は教育の研究に積極的で、長良小学校に赴任した翌年の昭和43年に、まず教師たち個人の研究発表を盛んにすることを提唱した。教師たちの研究体制を整えて、その中から児童たちのためになる新しい問題点をとらえていこうとする意欲的な理念に基づくものであった。

“あおぞらの時間” “いずみの時間” “みずわの時間”などの研究と実践はここから始まり、長良小学校独自のものとしての地固めの第1歩が踏み出される形となった。

“あおぞら” “いずみ” “みずわの”などの特別活動は、本研究が主眼とする“低学年からの家庭科教育”と直接のかかわりをもつものであるとは言えないが、底流には共通した教育への意欲が溢れており、ともに長良小学校の研究・実践の体制に端を発したものであったことから、それらを切り離して考えるわけにはいかない。したがってこの稿ではそれらについて順次触れていく必要があると思っている。

この頃、家庭科主任は新井規子教諭であった。家庭科では教科部として、低学年からの家庭科教育を研究し、その実践を実現する方向へ努力がなされていた。

昭和44年発行の研究要録第15号<sup>(2)</sup>巻頭において吉岡校長は所信を次のように述べている。「教育を教育たらしめるには透徹した世界観、教育観をもっていなければならない。その時その時の風潮に流されることなく毅然として現実に立ち続ける信念をもっていなければならない。まことに教育は難事中の至難事である。（中略）研究というものはこれで満足だと言い得るものではない。ただひたすらに自己の研究課題に立ち向い、常に前進しつづける教師のたゆまぬ努力こそ価値がある」と、そして21世紀の世代をになう子どもを育てるため教師はたゆまぬ実践の累積と理論の定着に取り組んでいかなければならないことを強く望んでいる。

この年の長良小学校の研究主題は「生きぬきはたらきかける子どもをめざして—教科およびあおぞらを足場に—」であった。

“あおぞら<sup>(3)</sup>”とは長良小学校における学校目標の「健康」「創造」「仲よし」のうち、第1目標である「健康」の分野の達成を目標として設定したものである。

現代の子どもは、ともすれば机の前に座って予習や復習に追われていたり、テレビを見ることに夢中であったり、煩雑な交通事情に行動が狭められたりしているが、長良小学校の児童たちも例外ではなく、同様の状況下におかれている。制約された環境の中で生きていくことのできる身体と、心の健康を育くむことは人格形成に欠くことのできない大切なことである。“あおぞら”はそのような視点から研究し、実践されるようになった。実践については“あおぞら”の時間を週1回、2時間とし、

低学年は設定日の午前中に、高学年は午後にこれを当て、その日は校外に出て、光りと土と空気に馴染みながら、青空の下でやりたいことを存分にするという自然に親しむ生活を体験させた。例をあげると

第1学年 大学グラウンドで散歩や春の草摘み

〃 2 〃 雄総山で基地作りや自由遊び

〃 3 〃 真竜寺山で春の自然に親しみ自由遊び

〃 4 〃 雄総山で山すべり

〃 5 〃 長良川で中洲遊び

〃 6 〃 長良川中洲でフォークダンスをするなどである。

この時期はまさに、長良小学校における教育研究体制の具体化と実践化の前進時代であった。

一方、家庭科では、林誠子教諭により「食生活をみつめ考える子どもをめざして—栄養指導を中心に<sup>(4)</sup>—」の課題のもとに、経済が急成長していたその当時において、人間性の喪失がとかく言われはじめ、青少年非行が問題となっている折柄、食生活が家族関係に大きな影響をもたらすであろうという観点からの研究が行われた。その研究報告をみると、ここでは

- ① 食品の好き嫌い。
- ② 食物を通して見た家族への思いやり。
- ③ おやつを中心にみた生活実態。

など、子どもの実生活に直結し、かつ時代に即応した内容が詳しく盛り込まれ、さらにそれを通して低学年からの家庭科教育をしていくことの重要性を説いている。研究意欲の高まっていた長良小学校において、家庭科では低学年からの家庭科指導の研究が熱心に行われていたのであった。

## 2. 生活コースの設置

昭和45年には家庭科教員の熱意により低学年からの家庭科教育を主体にした生活コースを発足させることになった。最初は家庭科部員のうち第2学年と、第3学年の担任教師が指導のあり方をまとめ、それを学年会で検討した。学年会はこれに対し非常に協力的で、多くの意見が出されたようである。学年を中心としたカリキュラムがそこで作成され、その実践をみるに至った。カリキュラムは第1表のようなものであった。

これをみると、給食前の手洗いの方法、給食作法、手足や衣服の清潔、掃除のしかたなど家庭生活に関することがらを、学年に適応させながら細かく指導されていたことがよくうかがわれる。これらは各学年に週1時間（40分授業）生活コースの時間を設けて全校教師の協力のもとに実施した。また第5・6学年はその時間を後述する“みずのわ活動”に当てることにした。

武藤淑子教諭は第3学年の担任であったが、「豊かな家庭生活をする子らをめざして—低学年から家庭生活の指導を<sup>(5)</sup>—」と題した研究報告で、低学年からの家庭生活指導の重要性を次のように述べている。「民主的な社会を作っていく基盤ともいえるべき家庭のあり方を正しく理解し、正しい理解の

第1表 生活コース発足当時のカリキュラム

学年 題材 月	第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
	題材・時間	目 標	題材・時間	目 標	題材・時間	目 標	題材・時間	目 標
四 月	学校のいきかえり (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一列で右側を歩く。</li> <li>・ 自分の通る道を覚える。</li> <li>・ 歩道橋のあるわけをわからせる。</li> </ul>	時間を守ろう (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間のけじめをつける。</li> <li>・ チャイムに合わせて行動する。</li> <li>・ 次を予想して行動する。</li> </ul>	身体検査 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静かに身体検査を受ける。</li> </ul>	掃除の工夫・屋内 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掃く、拭くなどが丁寧に来れる。</li> </ul>
					はじめての図書館 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本の借り方がわかって借りられる。</li> </ul>	体重測定 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健室では静かに脱着衣が出来る。</li> </ul>
							給食を待つとき (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早く手を洗って静かに坐って配膳を待つことが出来る。</li> </ul>
五 月	楽しい給食 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給食時の手洗いの方法</li> <li>・ 衛生的、能率的な配膳の方法</li> <li>・ 食事のあと始末が上手に出来るようにする。</li> </ul>	だまって掃除をしよう。(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ だまって掃除が出来る。</li> <li>・ 掃除のしかたがわかる。</li> <li>・ 整理のしかたを工夫する。</li> </ul>	花づくり (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花づくりに関心をもち、花づくりが出来る。</li> </ul>	自分の持ちもの (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持ちものをきちんと整理しておくことが出来る。</li> </ul>
					道具の置き場所 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室の施設がうまく活用出来る。</li> </ul>	集会 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ だまって早く整列することが出来る。</li> </ul>
	手足をきれいにしよう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手足のよごれや、衣服のほこりを落して教室に入る。</li> <li>・ ハンカチやちり紙をいつも身につけている。</li> <li>・ 便所の正しい使い方をわからせる</li> </ul>			図書館の利用 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館の本がうまく利用出来る</li> </ul>	そうじの工夫・屋外 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴミの運び方屋外の掃き方</li> </ul>
六 月	教室をきれいにしよう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室をよごしたあとはゴミをかたづける。</li> <li>・ 教室にある自分の持ち物を整理する。</li> </ul>	教室内の遊びを工夫しよう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨の日は室内で上手に遊ぶことが出来る。</li> <li>・ 危険な遊びをしないようにする。</li> </ul>	作品コーナー (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの作品をみんなに見て貰うために見やすい掲示が出来る。</li> </ul>	傘の整頓 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨水をきって傘をきちんと掛けることが出来る。</li> </ul>
	もうすぐ水泳 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持ち物(衣類)に記名させる。</li> <li>・ 脱いだ服をまとめる</li> <li>・ プールに入るときは体を清潔にする。</li> </ul>	水道を上手に使う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水道の水の使い方がわかる。</li> </ul>	好ききらい (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三群を知る(給食)</li> </ul>	図書館の利用 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館のきまりを守る。</li> </ul>
					花づくり (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月の目標と同じ</li> </ul>	掃除の工夫(室内・室外) (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掃除を早く、きれいに、要領よくすることが出来る。</li> </ul>
					雨の日の遊び (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨の日を上手に過せる。</li> </ul>	カバンの出し入れ (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カバンを棚に出し入れするのが上手に出来る。</li> </ul>

七 月	夏の暮し (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帽子の大切さを知る。</li> <li>・水難事故の恐ろしさを知る。</li> <li>・汗や雨で濡れた衣服の処置が出来る。</li> <li>・夏休みの小使いの使い方</li> </ul>	プールの約束を守ろう。(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プールへの往復の順路や歩行</li> <li>・プールに入る前やあとの注意を守る。</li> </ul>	楽しいプール (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりを守ってプールに入ることが出来る。</li> </ul>	プールの使い方 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校できめられたきまりや、約束を守ってプールを使うことが出来る。</li> </ul>
					花づくり (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花に愛情をもって育てることが出来る。</li> </ul>	器械や遊具を安全に正しく使うことが出来る (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場・公民館で器械・遊具を使わせる。</li> </ul>
八 ・ 九 月	運動 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・怪我や事故のない楽しい運動を力いっぱいさせる。</li> <li>・遊び道具をしっかり片付けさせる。</li> </ul>	あいさつをしよう (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達どうしや先生におはよう、さようならが出来る。</li> <li>・時や場所に合ったあいさつが出来る。</li> </ul>	作品コーナー (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の目標と同じ</li> </ul>	机の中の整頓 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の机の中を使いやすいように整理することが出来る。</li> </ul>
	放送を聞こう (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送をしっかりと聞く姿勢をつくる。</li> </ul>			係りの仕事 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の係りの仕事に責任がもてる。</li> </ul>	集会 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いさかいをしないで集会に参加することが出来る。</li> </ul>
十 月	本を大切にしよう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級文庫の本はみんなの本であることをわからせる。</li> <li>・本を長持ちさせるには本の出し入れや取り扱いに気をつける。</li> </ul>	整頓しよう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の持ち物机の中の整頓が出来る。</li> <li>・文庫・ボールなどの整頓ができる。</li> <li>・教室内をきれいに出来る。</li> </ul>	言葉使い (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時と場所を考えた言葉使いが出来る。</li> </ul>	掃除道具の使い方 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほうき、バケツ、ちりとりを用途に合わせて大切に使うことが出来る。</li> </ul>
	進んでお話をし、よく聞こう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きもちよくしつかりした返事をする事が出来る。</li> <li>・考えたことをよくわかるように話す。</li> </ul>	上手な給食 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい食べ方が出来る。</li> <li>・給食のあとと始末がきちんと出来る。</li> </ul>	きちんとした服装 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんとした服装が出来る。</li> </ul>	給食の準備 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の準備が手早く出来る。</li> </ul>
十 一 月					花づくり (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を美しくすることに心がもてる。</li> </ul>	食器の返し方 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の食器をきちんと返すことが出来る。</li> </ul>
	はくのからだ (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手足を洗ったあと、よく拭くことの必要さを知る。</li> <li>・体重の増減と健康のかかわりを知る。</li> <li>・寒さに負けないからだについて理解する。</li> </ul>	静かに聞こう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで話を聞くときでも、自分に話をされていると思って聞こう。</li> </ul>	図書館の利用 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の目標と同じ</li> </ul>	使ったボールの返し方 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使ったボールを所定場所に返すことが出来る。</li> </ul>
十 一 月			本を大切にしよう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静かに本を読む。</li> <li>・本を正しく持って読む。</li> <li>・本を丁寧に扱う。</li> </ul>	学用品の使い方(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫して道具が使える。</li> </ul>	カバンの中 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のカバンの中をきれいにしておくことが出来る。</li> </ul>
					休み時間 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの過ごし方を工夫する。</li> </ul>	本の取り扱いと始末 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本の取り扱いが丁寧に出来る。</li> </ul>
							手洗い(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食前や便所に入ったときの手洗いが出来る。</li> </ul>

十二月	冬の暮し (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の中ではあばれないで、静かな遊びが出来るように工夫する。</li> <li>・教室内を広く使うにはどんなところに気をつけたらよいかわかる。</li> </ul>	清潔なからだ (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体の清潔に気がつけることが出来る。</li> </ul>	好ききらい (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三群の食品を心得て食べられる。</li> </ul>	階段の上り降り (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段を走らないで上り降り出来る。</li> </ul>
					道具の置き場所 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内の施設が上手に活用出来る。</li> </ul>	窓の開閉 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間には窓を開けて新しい空気の入れかえが出る。</li> </ul>
					掃除 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手に手際よく掃除が出来る。</li> </ul>	アノラックの整頓 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アノラックをきちんと掛けておくことが出来る。</li> </ul>
一月	教室の暮し (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内ゲームを通して用具の整理や記名の必要性を確認させる。</li> <li>・暖房の室内と外での服装を考え、厚着とうす着について知る。</li> </ul>	みんなと遊ぼう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達は誰とでも仲よく遊ぼう。</li> <li>・さん、くんをつけて友達を呼ぼう。</li> </ul>	校内の歩き方 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走らないで静かに歩ける。</li> </ul>	長靴の整頓 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長靴をきちんと靴箱に入れることが出来る。</li> </ul>
					休み時間 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場を上手に活用して遊ぼう。</li> </ul>	トレパンに着替える (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の時の衣服の着替えが手ばやく出来る。</li> </ul>
二月	掃除のしかた (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除のしかたを体得させる。</li> <li>・掃除用具の使い方をわからせる。</li> </ul>	身の廻りをきちんとしよう (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傘・靴を整頓させる。</li> <li>・服装がきちんと出来る。</li> </ul>	図書館の利用 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この1年間、図書館が上手く利用できたかどうか反省する。</li> </ul>	雑巾の整理 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使った雑巾をきちんとかけておくことが出来る。</li> </ul>
	本を読もう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ本のお話をする。</li> <li>・読んだ本をみんなに紹介する。</li> </ul>			掃除 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外の掃除が上手に出来る。</li> </ul>	うがい (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風邪を防ぐために給食の前にうがいが出る。</li> </ul>
					好ききらい (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の三群を知っていて食べる。</li> </ul>	給食当番 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の食物をはやく清潔に運搬出来る。</li> <li>・エプロンのあと始末が丁寧に出来る。</li> </ul>
					自習のしかた (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強の計画が自分で立てられる。</li> </ul>		
三月	教室を飾ろう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで教室を美しく飾り、新1年生に好い感じを与える意識をもたせる。</li> </ul>	廊下を静かに歩こう (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下を走らず静かに歩くことが出来る。</li> </ul>	図書館の利用 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・索引の利用法がわかる。</li> </ul>	戸の開け閉め (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の出入り口や廊下の窓が静かに開け閉め出来る。</li> </ul>
					花づくり (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新3年への引きつぎが出来る。</li> </ul>	みんなの物の大切な使い方 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの物は使ったら所定のところに返しておくことが出来る。 (学校の備品)</li> </ul>

もとに小学校時代から健全な家庭を建設するための学習をしていくことは極めて重要なことである。残念ながら家庭科という重要な教科は第5・6学年に設置されているのみであるが、現実には、食事、掃除、身のまわりの整理など家庭生活に欠くことのできない大切なことがらが非常に多い。これらを小学校低学年から指導していくことこそ必要であると思われる。とくに幼少時に身につけた生活習慣

は成人になってから急に变えようとしても難しい。以上の観点から第5・6学年の家庭科の土台ともなる低中学年の家庭生活指導をどのようにしたらよいかを重要な課題としたい。」

それに基づく家庭生活指導の重点目標は

- ① 仕事をして責任を果たした喜びや満足感を感じさせる。
- ② 工夫する楽しさを味わわせる。
- ③ 経験を豊富にして、生活を工夫し、創造する人になるようにさせる。
- ④ 実践性を育てる。

などの点におかれていた。

ともあれ、昭和45年は生活コース設置の年であり、家庭科主任の新井規子教諭を中心に家庭科部員の教師たちは全校に向けてその位置づけに懸命な努力をした。新井（元）家庭科主任は当時のことを回想しながら「岐阜県はもとより、全国的にもまだ例をみなかった低学年からの家庭科の特設について、その位置づけや実践の研究をする一方、非常に研究熱心で理解のあった吉岡校長はじめ 他教科の教員の皆さんを説得し、実現化への協力を求めるのに、その頃は夢中でした」と語っている。

長良小学校におけるこの年の研究主題は「生きぬきはたらきかける子どもをめざして一教科およびいづみを足場に―」であり、学校目標の第2項目である「創造」つまり「自分で感じ、考え、見出してあらわすことのできる子」を狙いとした“いづみ”を全校の研究課題として実践化することに総力をあげていた。“いづみ<sup>(6)</sup>”は教師と子どもが響き合い、創造への意欲を泉のごとく湧かせていこうという意図によるものであった。

実践に当たって、教師たちはそれぞれに自分の専門分野で、子どもたちとともに追求していこうと思う具体的なことがらを最初に子どもたちに提示する。すると子どもたちは、教師と示されたことがらの両面から考えて、それぞれ希望する教師のところに集まる。その教師と子どもたちは共通の目標のもとで事物を見つめ、考え、創造意欲をかき立てながら実践していく。従来のクラブ活動は、教師の立場からすれば子どもとの交換の場であり、子どもの自主的活動を重視して進めるという意識があり、子どもの側からは、リクレーシヨ的な時間として受けとられがちであった。それに較べると“いづみ”では教師の専門分野で、教師の問題提起により、授業と同じような学習展開ができるという点に長良小学校独自の教科外活動充実への期待が盛り込まれていた。

昭和46年には家庭科主任の新井規子教諭が「家庭科のあるべき姿を求めて」と題する試案<sup>(7)</sup>を呈示し、またその年の10月には仙台市において実施された全国小学校家庭科教育研究会全国大会で、低学年からの家庭科教育についての研究発表<sup>(8)</sup>を行っている。それらによれば「教科としての家庭科はこれまで第5・6学年を対象として指導されてきているが、教科の目標に迫るためには学校教育全体の中で低学年から系統的に家庭科学習を位置づけて指導する必要があること」また「現在の指導内容は裁縫・調理などの技術面の色彩が強く出ているが、人間としての生活のあり方を求め、それを実践し、解決していく方向で指導内容を吟味する必要があること」そして、これらを学校教育全体の中で許容される範囲内で実施することとしたのが生活コース出発への試みであったと説明している。

実践事例として「手足を清潔にするという目的から第1学年に―上靴洗―いをさせたところ、靴を

洗ってきれいにしておく、いやな臭いがなくなって気持ちが好いことに気付き、靴を大切に、かかとも踏まないようになった。しかも、家庭でも自発的に下靴や長靴までも洗うようになって、母親を驚かせ、また、よろこばせている。第1学年の子どもは力もまだ弱く、洗い方も不十分ではあるが幼少時から行動によって体得させればそれが習慣となり、それを通して技能を身につけることができる」と述べている。

新井規子教諭はまた、家庭教育と家庭科教育の違いについて、家庭は愛情を主とする家族集団であり、情緒的な社会であるが、学校は知的、合理的な集団であり、知的な社会である。そして家庭は1対1の教育の場であるが、学校教育は集団の教育である。つまり、家庭では親の意志によって子どもをしつけ、それを通して人格形成をするが、学校では教師が目標を持って意図的計画的に指導していく場であると述べている。そこで家庭生活への課題として

- ① 家庭内での仕事を男女の別なく分担する必要があること。
- ② 安定した人間関係作りを求める場とすること。
- ③ 消費者教育の必要をわからせる場であること。

などをあげている。

また、学校における低学年からの家庭科教育では家族関係・時間・労力・金銭・物質・衣食住などについての指導内容に重点をおくことを示唆している。

因みに当時の長良小学校教師が家庭科に対してどのような意識をもっているかについて昭和44年と昭和46年の2回にわたり新井教諭が調査した結果は第2表の通りであった。

第2表 長良小学校教師の家庭科に対する考え方（昭和44・46年）

履修形態時期 家庭科の性格 調査年		いつの生活をめざして教育するか			指 導 者		家庭科教育をはじめる学年			男女共学か否か		計
		現 在	将 来	両 方	学級担任	専 出 張 ま た は 科	低 学 年	中 学 年	高 学 年	男 女 共 学	女 子 だ け	
衣食住に関する知識、 技能を習得する。	昭和 44年	11	0	12	12	11	8	4	11	21	2	23 %
	昭和 46年	4	0	16	4	16	4	3	13	16	4	20 %
家族の一員として家庭 生活をよりよくするた めの技能を習得し、実践 的能力を養う。	昭和 44年	4	8	61	67	6	47	11	15	73	0	73 %
	昭和 46年	20	2	56	67	11	56	11	11	78	0	78 %
家庭生活に必要な経験 を生活指導する。	昭和 44年	4	0	0	4	0	4	0	0	4	0	4 %
	昭和 46年	2	0	0	2	0	2	0	0	2	0	2 %

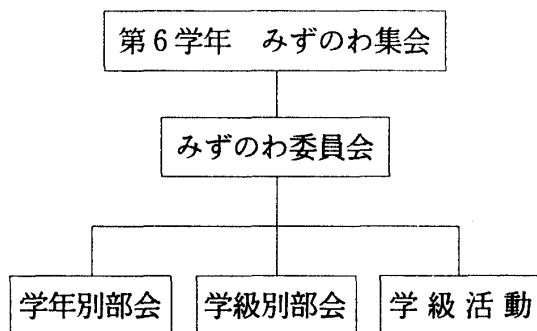


これによれば昭和46年の調査では、昭和44年の調査に比較し「家庭科は衣食住に関する知識技能を習得させる教科である」とする人の数が減り、「家族の一員として家庭生活をよりよくするための技能を習得し、実践的能力を養う」とする人の数が5%増えている。僅かな差ではあるがこのことは低学年からの家庭科指導を全教師の協力で昭和45年に実施し始めた結果、それまであまり家庭科に関心をもたなかった教師たちにも家庭科についての理解が深められた1つのあらわれであるとも言えるのではないだろうか。

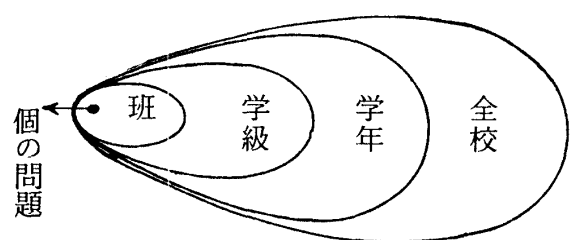
当時長良小学校には65名ほどの教師が在職していたが、女教師は5名だけであった。しかも女教師の中の4名が家庭科部員であったところから、低学年からの家庭科教育の実践は他教科の男性教師によることが多かった。男性教師たちは理解もあり非常に協力的だったが、中には「馴れない実践で面倒に感ずる」という意見もあったようである。

この年の長良小学校の研究主題は「生きぬきはたらきかける子をめざして—教科およびみずのわを足場に<sup>(9)</sup>—」であった。“みずのわ”とは即ち、学校目標第3項の「仲よし」を実践させるためのものである。当時長良小学校は1,900人の児童をもつマンモス校であり、自治する体験をもたせることが難しいとされていた。そこで文部省指導要領の「児童の自発的、自治的な実践活動を通して健全な自主性と、豊かな社会性を育成し、個性の伸長を図る」目標と、児童会活動の目標とを一致させた“みずのわの時間”を実施した。“みずのわ”の実践に当たっては、第6学年を中心として第1図のような組織で具体的な問題を討議し、集約していく。

第1図 みずのわの組織



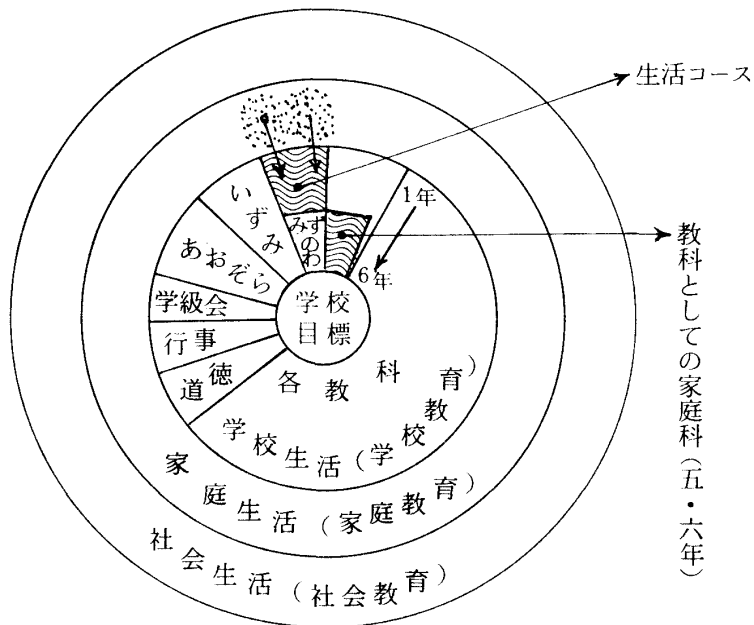
第2図 問題解決にかかる“みずのわ”実践の形



例えば「運動場を高学年がとってしまっているように遊べない」という問題が学級活動、学級別部会で提起されるとそれが学年別部会を通ってみずのわ委員会にとりあげられ、それについてそこでのいろいろな意見が出される。それをさらに第6学年みずのわ集会でとりあげ、最終的に「運動場はゆずり合って使おう」という決着をみるというかたちのものであった。これを図示すると第2図のごとくになり“みずのわ”状を形どるということである。

これら“あおぞら”“いずみ”および“みずのわ”と低学年からの家庭科教育「生活コース」との位置づけを図に示すと第3図の通りであり、また時間配当は第3表のようであった。

第3図 学校全体からみた生活コースの位置づけ  
— 新井規子教諭試案による —



第3表 領域・活動別時間配当表(年間42週)

領域 学年	教道 科徳	特別教育活動 児童活動	行事	総合 計	週 時 数
		学級会 生活コース みずのわ いずみ あおぞら 全校集会 給食くぼり			
1	782 34	34 34 — — 58 1 —	76	1,019	25
2	840 35	35 35 — — 70 1 —	81	1,097	27
3	910 35	35 35 — — 70 1 —	79	1,165	30
4	980 35	35 35 — 35 70 1 3	81	1,275	33
5	1,050 35	35 — 70 70 70 1 17	89	1,437	37
6	1,050 35	35 — 70 70 70 1 15	95	1,441	37

第3図でわかるように第1～4学年に設定した生活コースの時間を第5・6学年では“みずのわ”の時間に当てている。

昭和47年は長良小学校独自の低学年からの家庭科「生活コース」が発足してから3年目に当たる年であり、吉岡校長から大前保次郎校長に変わった第2年目の年でもあった。この年の研究主題は「個の確立をめざす40分授業—教科学習を足場に—」であり、研究・実践は個の確立の方向に重点がおかれ始めるようになって、育ちかけた生活コースの実践はやや弱まった感じがしないでもなかった。だが年間35時間、1週1時間(40分授業)、第1～4学年までに設置された生活コースは給食指導、保健指導、交通安全指導も含めて継続して行われていた。

この年の家庭科に関する研究は西垣邦子教諭による「食生活を科学的にみつめる子をめざして—間食指導を中心に—<sup>(10)</sup>」で、子どものおやつを栄養面・消費者経済面・家族関係面などからとらえ、その摂り方を詳しく検討したもので

あった。また研究授業では、第2学年で田口恵子教諭が「学級文庫」について、第4学年で西垣教諭が「よいおやつ」について発表を行っている。「学級文庫」は学級文庫の本のいたみに気づき、破れにくい紙で補修し、標題をつける指導であった。

昭和48年には大前氏から横山克己校長に変わり、昭和52年まで続いた。

この頃、長良小学校家庭科では第5・6学年の家庭科カリキュラムの精選に伴い、低中学年の家庭科の内容を含む生活コースを「家庭科低学年」と変える方向で研究が進められるようになった。それは昭和45年から発足した生活コースのカリキュラムは“みずのわ活動”に関連した「仲よし」を枢軸

とした上に成り立っていたのであるが、むしろこれは第5・6学年の家庭科に連結させていったほうが妥当ではなかろうか。したがって第1学年からの家庭科としていくべきでないかという家庭科教師たちの熱意溢れる意見に基づくものであった。当時第3学年担任であった田口恵子教諭と、第4学年担任の左高宣子教諭が中軸となり、その年に新井教諭に代って家庭科主任となった西垣邦子教諭および、鈴木勢津子教諭がそれに加わって、先輩や学内の教師たちの意見を取り入れながら、その改訂について熱心な討議が重ねられた。

当時実践されていた生活コースカリキュラムと、第5・6学年家庭科のそれとを家庭領域・衣領域・食領域・住領域にわたって比較してみると、図書館利用および、交通安全の指導が生活コースからはみ出す形になる。このうち、図書館利用は国語に、交通安全は生徒指導で年間何時間か特設すればよいのではないかという具体的な意見交換もなされたということである。

### 3. 生活コースから低中学年家庭科特設へ

昭和49年にはかねてからの懸案通りついに、第1学年からの家庭科を設置することに踏みきられた。家庭科関係者はもちろん、学校全体の熱意によるものであった。その時出された各学年の指導の重点を領域別に示したものが第4表である。

第4表 家庭科学年別指導の重点（領域別）

#### 衣 領 域

学 年 別	指 導 の 重 点
第1学年	・自分で衣服を脱いだり、着たり、あと始末をしたりすることが出来る。
第2学年	・あと始末がしっかり出来、身なりを整えることに関心をもつ。手入れのおねがいが出る。
第3学年	・身なりを整えることが出来、目的に合った身なりが出来るように心がける。
第4学年	・衣服の着方について考えることが出来、簡単な手入れが自分で出来る。
第5・6学年	・衣服の着方、選び方がわかり、自分に合った家族関係を考えた衣生活が出来る。

食 領 域

学 年 別	指 導 の 重 点
第 1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食を中心にして、よい食事のしかたがわかる。</li> <li>・おやつを食べるとき、分量・選び方がわかる</li> </ul>
第 2 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体と食物の関係がわかり、好ききらいなく食べられる。</li> <li>・簡単な食事の手伝いが出来、三角食べが出来る。</li> </ul>
第 3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物の三群分けが出来、組み合わせて食べることが出来るようにする。</li> <li>・食事の手伝い(食器運び、食器洗いなど)が出来る。</li> </ul>
第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物を組み合わせて食べることが出来、からだ作りを考えられる。</li> <li>・食事に関する仕事がわかり、食事の手伝いやあとかたづけが工夫して出来る。</li> </ul>
第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品を6つの基礎食品群に分け、食物の栄養についてわかる。</li> <li>・野菜の生食、ゆで卵など簡単な調理の実習、試食を通して食事作法を身につける。</li> <li>・グループで協力して手順よく仕事をする事が出来る。</li> <li>・使用した調理器具のあと始末が出来る。</li> </ul>
第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常食の栄養的な摂り方がわかる。</li> <li>・朝食・昼食の簡単な献立を作ることが出来る。</li> <li>・作った献立について材料を自分たちで購入して調理することが出来る。</li> <li>・会食する計画が立てられ、会食のしかたがわかる。</li> </ul>

住 領 域

学 年 別	指 導 の 重 点
第 1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学当初、個人の物の管理を中心として指導し、学校生活に馴れさせる。</li> <li>・3学期から教室の管理を行わせる。</li> </ul>
第 2 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の掃除および、道具の管理。</li> </ul>
第 3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の掃除を生活時間に合わせて行う。</li> </ul>
第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の使い方をクラス全体の子どもがコーナーごとに分担して受持ち、住空間の利用を工夫させる。</li> </ul>
第 5・6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭の住生活に目を向けさせ、自分の勉強部屋を管理することが出来るようにする。</li> </ul>

家庭領域

学 年 別	指 導 の 重 点
各 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣食住の3分野で培ったものを総合していく力をつける指導を行う。</li> </ul>

家庭科低学年の授業時数は従来通り週1時間であったが、そのうちの2分の1の時間を第5・6学年の家庭科に関連する内容に当て、残る時間を図書館利用、交通安全指導を含めた学校生活に関連の深い指導に当てることにした。これらをみると、生活コースとして位置づけしていた前年までのカリキュラムと比較して大した変化はなかったようにも見受けられる。

この年の家庭科に関する研究主題は「家族の一員として、ひとりひとりがよりよく生活しようとする子どもをめざして」であった。家族の一員としての自分の生活をみつめ、それぞれの子どもが課題を持つようにし、その解決のために考え、実践していくところに狙いをもたせたものであった。また、第3学年の担任であった鈴木勢津子教諭は「課題の持てる子をめざして一住領域を中心に<sup>(11)</sup>」と題した報告をまとめている。そこでは広い視野から子どもたちに「住まい」を考えさせ、いろいろな問題点を見つけながら、よい住まい方について理解させていく課程が具体的に述べられている。

昭和50年に鈴木勢津子教諭が家庭科主任となった。この年の家庭科の研究は食領域に焦点があてられている。食の分野がとりあげられたのは、全国的に児童の身長・体重・胸囲が向上してきている中であって、長良小学校児童はこれら平均がすべて下廻り、また岐阜市の小学校44校の肥満、るい瘦統計からみると、肥満は17番目であるのにるい瘦は6番目で、るい瘦者が多いなどの理由によるとしている。

食生活の指導に当たっては、各学年別に次のような目標と題材が設定された。

第5表 よい食生活の出来る子どもの姿—目標と題材

学 年	目 標	題 材
第1学年	好ききらいを云わないで、何でも食べることが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦給食</li> <li>◦野菜</li> <li>◦パンの味</li> </ul> (注) 給食のパンを素材として、よく噛んで食べる必要のあることや、炭水化物について理解させる。
第2学年	流行や好みに流される食べ方でなく食品の種類を多く、何でも食べることが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦くだもの</li> <li>◦お菓子</li> </ul>
第3学年	自分の体に関心を持ち、健康と発育のために、何を食べたらよいかわかり、好ききらいなく多くの食品を摂ることが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦何でも食べよう。</li> <li>◦食品</li> </ul>
第4学年	自分の体の成長の様子を知り、健康と成長のために何を食べたらよいかわかり、食事作りの手伝いをしながら食べ物の理解が出来る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦みどりの仲間</li> <li>◦お菓子の選び方</li> </ul>
第5学年	自分の体の成長や健康のために何をどう組み合わせる食べたらよいかわかり、家族にはたらきかけて実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦野菜サラダ</li> <li>◦卵とビタミンA</li> <li>◦よい間食</li> </ul>
第6学年	自分の体の成長や健康のために何をどれだけ、どのように食べたらよいかわかり、家族にはたらきかけたり、簡単なものを作って実践出来る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦朝食作り</li> <li>◦昼食作り</li> <li>◦間食作り</li> </ul>

このように長良小学校では低学年からの家庭科が漸く定着しかけてきた。

しかし、間もなく指導要領には無い低学年からの家庭科設置についてはその位置づけに問題があるとする声が聞かれるようになった。

昭和51年、家庭科主任は左高宣子教諭であった。研究実践については前年にひきつづき食領域に焦点をあて「家族の一員としてひとりひとりがよりよく生活できる子をめざして一食領域を中心に<sup>(12)</sup>」を左高教諭が野村令子教諭とともにまとめている。

一方、現代の子どもたちは経済の安定と物質の豊かさの中で育てられているために、

- ① 物を大切にしない。
- ② 物を使ったあとの始末をしない。
- ③ 物を買う際選び方に自主性をもたない。

などの欠陥があるから、「物の値うちがわかり、選び、使える子」を目ざして“消費者教育を含む指導”の強化が進められるようになった。消費者教育を含む指導の基本姿勢は、選び方・使い方・買い方についてで即ち、

- ① 低学年から物を選ぶ力
- ② 物を大切にすること
- ③ 物を上手に使う力

を養うことにあった。

また、その時消費者教育を含んだ題材としてとりあげられていたのは第6表のようなものである。

第6表 消費者教育的内容を含む題材一覧表（昭和51年当時）

学 年	衣 領 域	食 領 域	住 領 域	家 庭 領 域
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傘の始末(雨傘の始末, 置き場所, 記名)</li> <li>・運動服に着替える(服をたたむ, 体育の服の始末)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯とおやつ(おやつを選び方)</li> <li>・給食のあと始末(ゴミ, 残菜の区別と処理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな教室(用具のしまい方, 置き場所)</li> <li>・みんなの物の使い方(使ったらもとへ, 安全に使おう)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のチャイム(時間を守る)</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいなハンカチ(記名, 選び方, 使い方)</li> <li>・運動の時の服装(場に合った服, 汗を吸う布地)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足のおやつ(着色料, 選び方, 予算内)</li> <li>・みかんジュース(ほんものの味, 着色料)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちらかった学用品(記名, 整理のしかた)</li> <li>・掃除(ゴミの処理・区別)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小使いの使い方(金銭の使い方)</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臭い足(よごれた靴の始末, 長持ちさせる手入れ)</li> <li>・ボタンの始末(ボタンの役目, 落ちそうなボタンの始末)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おやつのおやつ(製造年月日, くじつき, 予算内)</li> <li>・おいしい果物(果物の選び方)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学用品の整理(整理整頓, 学用品の選び方, ジスマーク, 安全マーク)</li> <li>・掃除(道具の使い方)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間の使い方(合理的な時間の使い方)</li> </ul>

第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汗をかいた時（下着の布地、選び方）</li> <li>・足もとをきれいに（靴の手入れ、洗剤、道具の使い方）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おやつとり方（品質表示、強化マーク、ジャスマーク）</li> <li>・みどりのなかまを食べよう（野菜の新古、選び方）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の机の中（学用品の選び方、整理整とん）</li> <li>・掃除の工夫（道具の使い方、あと始末、ぞうきん）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の生活時間（生活設計）</li> </ul>
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯（洗剤—表示の見方、使用量、方法。布地—品質表示。下着の選び方）</li> <li>・ボタンつけ（既製服のボタンつけ、既製服の選び方）</li> <li>・ほころびなおし（既製服の縫いしろ、既製服の選び方）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしたちの食物（品質表示、生野菜の選び方、農薬汚染と洗浄、油のあと始末、台所洗剤）</li> <li>・よい間食（品質表示、添加物、漂白剤、防腐剤、ガス器具の使い方、手作り）</li> <li>・成長期の食物（たんぱく質の選び方、卵、野菜の選び方、買い方）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内の掃除（器具、用具、用剤の選び方、使い方、手入れ、場所とやり方）</li> <li>・勉強部屋（部屋の整理整とん、整理用具の選び方、マーク類のみ方）</li> </ul>	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上着の洗濯（せんいと洗剤、せんいの種類と性質、洗剤の種類と使い方、品質表示、取扱表示、アイロンの温度）</li> <li>・あたたかい着方、涼しい着方（色・形、布地、上着、中着、下着の役割、枚数、選び方）</li> <li>・衣服設計（種類と枚数、既製服の選び方、買い方、新調や補充のしかた、更生利用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食作り（米の種類、ねだん、買い方、強化米、豆腐、味噌、防腐剤、添加物、ゴミ公害、ゴミの処理）</li> <li>・昼食作り（インスタント製品、缶詰、冷凍もの、練りものの選び方、利用のしかた、表示、保存法、金銭の記録）</li> <li>・間食（パンハムの選び方、予算内の買いもの）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・涼しい住い、暖かい住い（冷暖房器具の特徴、選び方、使い方）</li> <li>・明るい住い（照明器具の特徴、選び方、使い方）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活時間（時間の計画的、有効的な使い方）</li> </ul>

#### 4. 低中学年家庭科特設から再び「生活コース」での指導へ

前述のように、長良小学校では昭和49年から家庭科を低学年から特設し、それが漸く軌動に乗りかけたかに見えたが、昭和52年、これを再び「生活コース」に戻して指導することになった。

生活コースの時間は、第1学年から第4学年に年間44時間（第1学年のみ42時間）を当てることとし、第5・6学年にも年間に20時間生活コースの時間を新しく設けることとした。それまでは第1学年から第4学年までの実践によって第5・6学年の基礎作りをしてきたが、教科としての家庭科および“みずのわ活動”のみに第5・6学年の指導を委せるのではなく、自分で自分を律するという“経験”指導を生活コースでもするべきであるという考えによるものであった。

生活コースの題材は各学年とも

① 1日の生活 ② 友だちづくり ③ 整理・整とん ④ 交通安全 ⑤ 図書館利用 ⑥ 保健 ⑦ 給食 ⑧ 清掃 ⑨ 長期休暇（長期休暇前後の指導を各学年に9時間づつ位置づけした） ⑩ その他（第1学年～第4学年に対し、衣服およびおやつに関する指導）

にわたった。

これに基づく各学年別のカリキュラムは、時間の拡充とともに、長期休暇前後の指導に行き届いた内容が盛り込まれ、実践面の強化を感じるものの出来たものであった。昭和45年の生活コースおよび昭和49年の低学年からの家庭科指導のカリキュラムに比較すると可成り整理されてきている。

この年から昭和54年までのあいだ家庭科主任には野村令子教諭が当たっている。また家庭科部の主題は「実践的・体験的な家庭科学習をめざして」であった。家庭科研究部会では長良小学校児童第1学年、第3学年および第6学年の中から121人を対象として、家庭生活の衣食住と消費生活について詳しく調査を行い、その結果から

- ① 子どもは家事労働などの家庭の仕事に参加する時間が少ないため、生活処理能力を身につけたり、家族の一員としての意識を高めたりする機会に恵まれていない。
- ② 過保護で、意図的に家庭の仕事をさせている家庭が少ない。
- ③ 物が豊富にあり、生産活動に携わる機会が少ないため、物の価値を理解し得ない子どもが可成りある。

といった傾向がみられること、そしてそれらを「家族の一員として自分の生活をみつめ、そこに問題点を持ち、解決のため頭や手足を使って具体的に行動する中で各自の家庭に合わせて、よりよい方法をみつけ、それを生活の中に生かし創造的な実践を通して自分の生活を少しでも高めていくことが出来る子ども」に指導していく必要があると述べている。

また、研究授業では、原淑子教諭が第1学年で「ぬいだ服<sup>(13)</sup>」を題材にして、気温や体調に応じて衣服を調節して着ることや、ぬいだ服をたたんで始末することの指導を、また小森美夜子教諭は第3学年で「机の中<sup>(14)</sup>」を題材に、机の引き出しの中の整理・整とんをすると使いやすくて便利であることや、整理・整とんはどのようにして行うかその方法についての指導をしている。

昭和53年、長良小学校校長は横山氏から板津包信校長に変わり、それは昭和55年まで続いた。

家庭科では主任の野村令子教諭、原淑子教諭および小森美夜子教諭により、前年の研究の反省と問題点について検討している。それによれば

- ① 手を使う技能の体系をもっとよく考えてみる必要がある（子どもの発達段階と子どもの実態と発展に合わせて道具の使い合わせ方や教材の扱い方を考える必要がある。一例、ボタンつけの学習で糸や針の扱いは何年生からどのようなものを取り入れたらよいかなど）
- ② 生活をみつめ課題化する段階で、もっと子どもの心情にひびくような手だてを工夫すべきである。
- ③ 目的意識のある体験学習をもっと取り入れていくことが必要である。

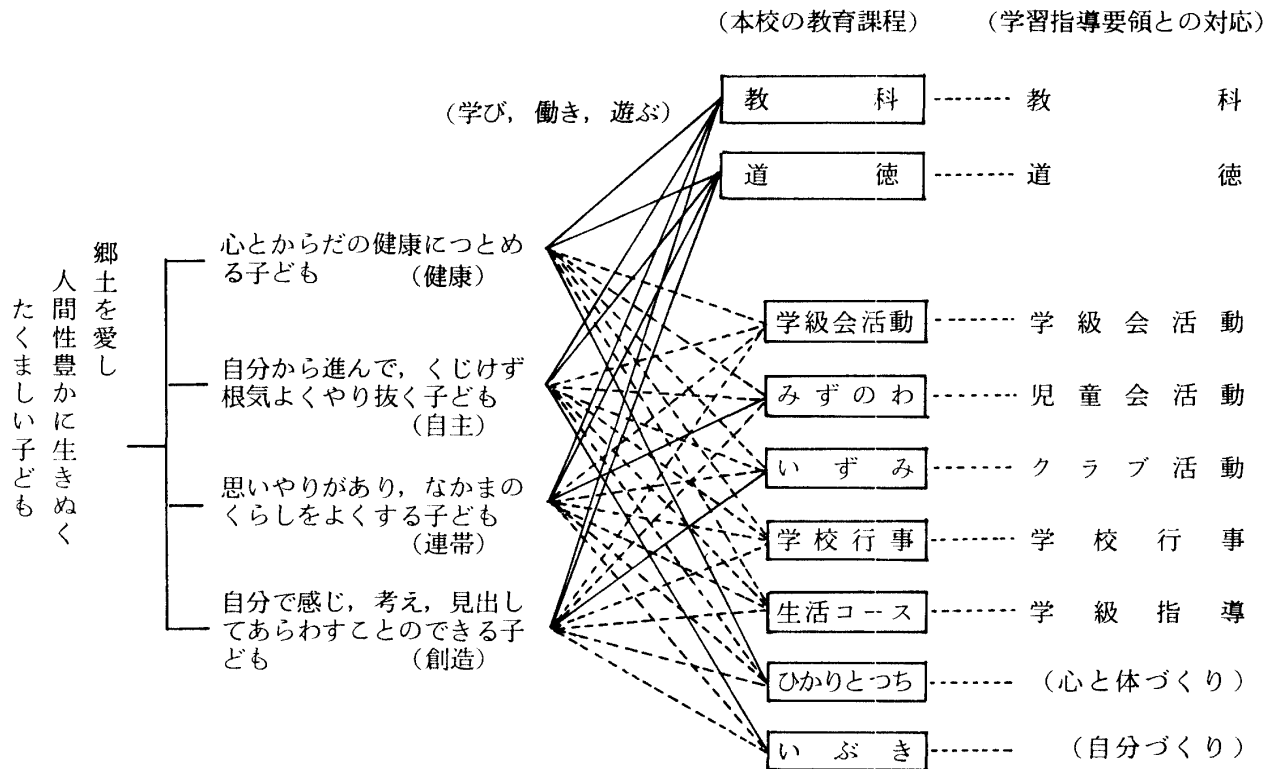
などがあげられている。そして、それらを踏まえ、低学年からの生活コースについては、技能の系統を考慮したカリキュラムの再編成をしていくべきであるとし、それをこの年の家庭科の重点にとりあげるとしている。

この年、長良小学校における教科目標は「郷土を愛し、人間性豊かに生きぬくたくましい子ども」であった。また、当時の教育課程には各教科、道徳のほか、改善しながら実践してきた4つの時間“みずのわ”“いずみ”“ひかりとつち（心と体づくりを目標としたもの）”“いぶき（自分づくり



を目標としたもの）”が特設されていた。その中において生活コースの位置づけは第4図に示した通りであった。

第4図 長良小学校における教育目標と生活コースの位置づけ（昭和53年当時）



昭和54年は、長良小学校において低学年からの家庭科教育を生活コースの名のもとに位置づけしてから10年目に当たる。生活コースのカリキュラムは昭和52年に編成されたものを、子どもの実態に則し少しずつ手直しして実践してきたが、発足10年目に当たるこの年の題材を学年別、領域別に分類すると第7表のようであった。

第7表 生活コース、学年別・領域別題材分類（昭和54年当時）

学年 \ 領域	住 領 域	衣 領 域	家庭領域	食物領域	図書館利用	交通安全
第1学年	10 時間	8 時間	4 時間	8 時間	1 時間	4 時間
第2学年	10	6	5	9	2	3
第3学年	10	7	4	9	3	2
第4学年	8	5	8	9	2	3

しかし、研究職員会では学習指導要領改訂全面実施の次年度に向けて、生活コースの位置づけを見直すこととなり、その検討が重ねられるようになっていた。

## 5. 「生活コース」から「学級指導—くらし—」の指導へ

低学年からの家庭科教育を含む「生活コース」は昭和55年から「学級指導—くらし—」と改められた。これは「個人および集団生活における生活態度の育成」を旨として従来行われていた担任の指導を、さらに意図的発展的に強化していくためのものであった。

学級指導—くらし—の指導内容は、

- ① 学校の生活および学級の生活への適応に関する指導
- ② 保健に関する指導
- ③ 交通安全に関する指導
- ④ 学校給食（食生活を考え好ききらいなく食べる。協力して当番の仕事をするなど）に関する指導
- ⑤ 学校図書館に関する指導
- ⑥ 道徳に関する指導
- ⑦ 掃除・環境美化に関する指導
- ⑧ 長期休暇前後の指導
- ⑨ 家庭生活の指導

などで、4週間に3時間、年間25時間を当てることとした。これによりそれまでの「生活コース」に比べ時間数は大幅に削減されることになった。

この年の家庭科主任原淑子教諭は「意欲的に問題追求ができる子をめざして—被服領域における生活の見つめさせ方を中心に<sup>(15)</sup>—」と題し、被服領域を通して子どもの生活指導についてまとめている。そして、学級指導—くらし—の中での被服領域の指導題材として、

第1学年—運動服に着がえる（衣服の着脱が出来、脱いだものはたたんでまとめておける）

第2学年—給食当番の身じたく（結食当番の白衣の着脱および使用後の整理）

第3学年—くさい足—上靴洗い（上靴の汚れに気づき、自分で上靴洗いが出来る）

第4学年—身のまわりを清潔に（汗をかいた時の始末や、汗をかきやすい時の服装、ハンカチやタオル選び）

をあげている。

昭和56年には校長として辻太氏が着任し昭和59年まで続いた。また、家庭科の主任には杉山恵子教諭が当たり、現在に至っている。

学級指導—くらし—は昭和55年に第1～4学年までそれぞれ年間25時間を位置づけ、前述のような9分野から指導を行ってきており、以来1年ごとに指導上の問題点をみつけ、子どもの実生活により身近かなものにするを考慮しながら部分的に手直しする形で今日に及んでいるが、その中家庭科指導に関する時間数は12時間であり、その内容は第8表に示す通りである。

以上のように、子どもの発達段階に応じた内容に基づいて、その中から「栄養のとり方」「時間の使い方」「物の選択のしかた」「経済」「家族の団らん」「作法」などの指導が重点的に行われている。

第8表 学級指導—くらし—における低学年からの家庭科教育に関する内容

学年	ね ら い	被 服 領 域	食 物 領 域	住 居 ・ 家 庭 領 域
第一学年	自分のことは自分で出来、みんなと楽しく生活できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動服に着がえる — 脱いだ服の始末</li> <li>・手や足をきれいに — きれいなハンカチ</li> <li>・ストーブのあたり方 — 服の調節</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい給食①② — 給食の準備、給食のあと始末</li> <li>・いろいろ食べよう — 食べものの好き嫌い</li> <li>・だい好きなおやつ — いろいろなおやつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな教室① — からぶきのしかた</li> <li>・きれいな机の中 — いるもの、いないもの</li> <li>・きれいな教室② — 花のある教室</li> </ul>
第二学年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食当番の身じたく — 白衣のたたみ方</li> <li>・清潔な体 — 汗の始末</li> <li>・寒さに負けるな — 室外と室内の服</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな仲間を食べよう — 赤、緑、黄の仲間分け</li> <li>・仲よく食べよう — 給食を楽しむ工夫</li> <li>・遠足のおやつ — 色のうすいおやつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除のしかた①② — めれぞうきんの扱い方、ほうきの使い方</li> <li>・机の中 — 学用品の入れ方</li> </ul>
第三学年	仲間のことを考え、自分の生活をみつめなおすことが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くさい足 — 上靴洗い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい食べ方 — 仲間を組み合わせる。</li> <li>・楽しい給食 — 給食のマナー</li> <li>・おやつの買い方 — くじやおまけつき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除のしかた — 教室以外のやり方</li> <li>・学用品の整理 — ロッカーの整とん</li> <li>・世話になった教室 — 油ぶきのしかた</li> </ul>
第四学年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身のまわりを清潔に①② — 汗を吸う素材</li> <li>・健康的な着方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい食べ方 — 体と栄養</li> <li>・楽しい給食 — 楽しい雰囲気作り</li> <li>・おやつのととり方 — 時間や量を考えて食べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除のしかた — 合理的な掃除</li> <li>・私たちの教室 — 教室内の整理整とん</li> <li>・1日の生活時間 — 自分の生活設計</li> </ul>



昭和57年には、杉山恵子教諭による「よりよい食生活にしよう」と主体的にとり組んでいく子をめざして「間食指導<sup>(16)</sup>」の研究がまとめられ、飽食の時代といわれる中であって、子どもが自主的に何を選ぶかという食生活の問題を追求している。また昭和58年には同じく杉山恵子教諭が「主体的によりよいくらしづくりが出来る子をめざして—低学年の実践から<sup>(17)</sup>—」と題する研究の中で「自発的に行動しないで、いちいち教師に聞いてからでないと行動できない子どもが多くなってきている。本年度の方針として、生活の実態に子どもの興味や関心をもたせ、自分たちで課題をみつけ、主体的に実践をしていくことの出来る子を旨したい」と述べている。例えば第1学年の子どもの場合ははじめての学校生活であるから「靴箱の使い方」「ロッカーへのかばんの入れ方」「机のひき出しの整理」などについて、子どもの側から疑問が投げかけられたのを機に、しつけとしてではなく、自主的な自覚に基づいた子どもたちの話し合いによってよりよい方法を考えさせ、指導した。その結果、靴箱は1週間、ロッカーのかばんは3日間の見届け点検で結果が良好となり、机のひき出しの中は指導2週間後ぐらいまではよく整理されていたと報告している。

昭和59年には、鷺見美年子教諭が、家庭部校内研究会において「生活に生きる体験学習のあり方<sup>(18)</sup>」

を主題とした研究発表の中で、原因や理由を考えさせる力を養うことの必要性について述べ、第1学年と第2学年における「パンツ洗い」の実践過程を報告している。

昭和60年には、船坂恵子教諭が「よりよい暮らしを志向し、実践していく子をめざして<sup>(19)</sup>」と題して「豊かで便利になった現代社会では核家族化が進み、家庭を家事労働の軽減、生活の合理化に導いた。そして家事労働を代行する産業の増加によって家庭機能が低下し、ひいては家族の結びつきを弱く、また家庭教育の弱体化を顕著にした」とし、人間関係に視点をあてた研究をまとめている。また、杉山恵子教諭による「家族の一員として自覚を高め、生活をきり拓いていく力を育てる指導<sup>(20)</sup>」では、家庭内暴力や非行が増加の一途をたどっている中で、家庭での人間性の回復や、家族の人間的なふれ合いを間食を通して指導したいと述べ、間食指導の実践を第9表のように工夫していると報告している。

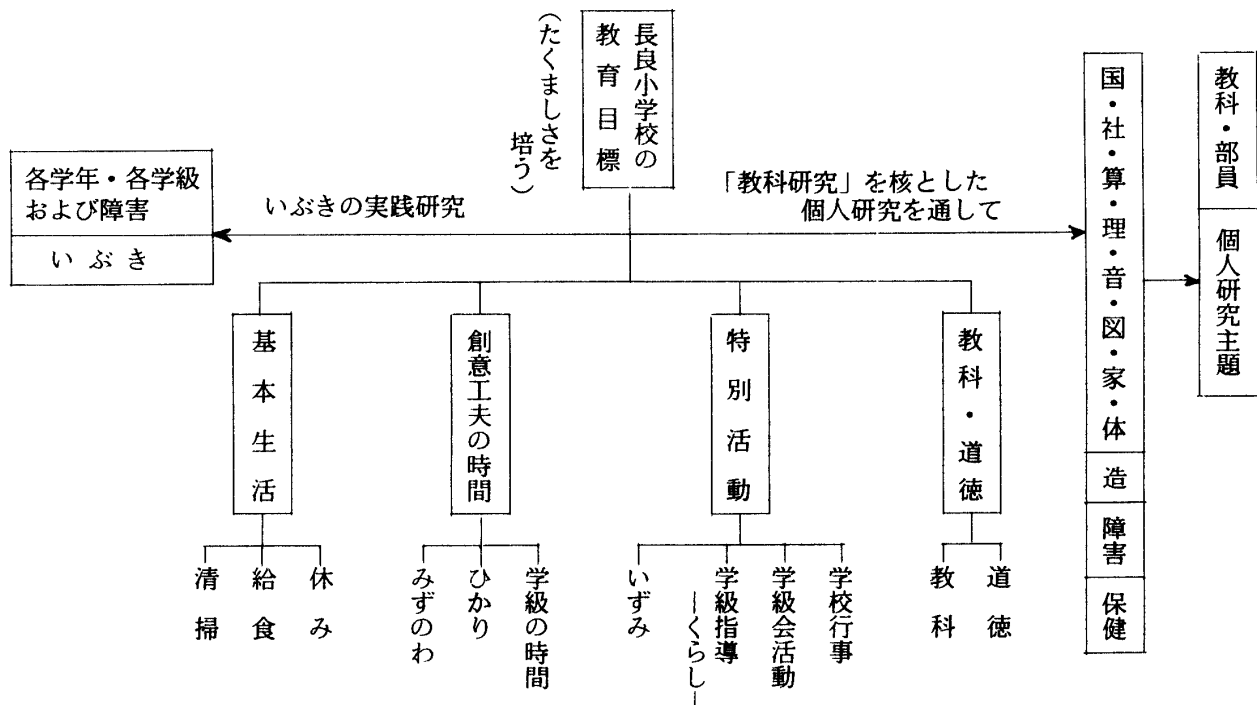
第9表 間食に関する指導内容とその工夫

学年	題 材	指 導 目 標	指 導 内 容	実 践 の 工 夫
第 一 学 年	だいすきなおやつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• おやつの種類を知り、おやつをひろげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 家の人が用意してくれたおやつを感謝して食べる。</li> <li>• 買ってほしいおやつを言えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• さとうの多くないおやつ、さとう以外の栄養を含むおやつを具体的に見せて実践化へつなぐ。〈実物〉</li> <li>• 甘くないおやつを教師が手作りして味わわせる。〈体感、ひとりひとり〉</li> </ul>
第 二 学 年	遠足のおやつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 手や舌に色のつく菓子は買わないようにする。(表示の見方)</li> <li>• 金額、分量を考えて買う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お金を落とさないように工夫して持っていく。</li> <li>• 家の人に、何を買ってきたか話すようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 持参した菓子を実際に分類させる。〈操作、ひとりひとり〉</li> <li>表示の見方    </li> <li>• どんな菓子の選び方がよいか具体的に考えさせる。</li> </ul>
第 三 学 年	おやつのお買い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>• おまけやくじつきは買わないようにするとよいことがわかる。</li> <li>• 立ち食いや買い食いはしないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 何を買ったか家の人に話すようにする。</li> <li>• 包み紙などのゴミは自分で始末する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実際にくじをひかせ、なかなか当たらないことを体験させる。</li> <li>• 全くじの中でどのくらい当りが入っているか図示してわからせる。</li> <li>• くじつきの失敗談を語らせる。</li> </ul>
第 四 学 年	おやつのおとり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 栄養や時間・量を考えて食べるようにする。</li> <li>• 体によいおやつがわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 食事がおいしく食べられるように考えて食べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• おやつカードを使って、組み合わせや量を実際にやってみる。〈操作〉</li> <li>• さとう含有量を実物(角さとう)で示し、1日の必要量と比較させる。</li> <li>• 食物の消化時間から量や時間を考えさせる。</li> </ul>

現在は、第5図に示すような「たくましさを培う」という長良小学校の教育目標をもとに、教科と特別活動との調和をはかった全体構想によって研究と実践が前向きに進められている。低学年からの家庭科教育は昭和55年以来、学級指導一くらしーの中に位置づけ、家庭科関係者は熱心にその研究と実践に当たっている。しかし年間25時間の枠の中に学級指導と家庭科教育を含めて行うというのは時間不足であり、折角これまで立派に育てられてきた「低学年からの家庭科教育」の発展をねがう者の立場からすれば、これはまことに残念なことである。

一方、昭和48～49年に家庭科主任として活躍した西垣邦子教諭（昭和61年から岐阜県指導主事）は、昭和56～58年に岐阜市立岩野田小学校において“ゆとりと充実”の教育を目標にして、全学的な協力によって学級指導で低学年からの家庭科教育を位置づけた。現在は野沢とみゑ教諭がそれを継承し、研究と実践をさらに進めている。その後、昭和59～60年には西垣氏は岐阜市立島小学校に教頭として勤務することになったが、ここでも自分の担当する教科で小規模ながら低中学年の家庭科指導を試み、子どもの家庭生活をよりよくすることへ努力をしてきている。

第5図 長良小学校における教育の全体構想（昭和60年）



尚、長良小学校において昭和44年以来続けられてきている低学年からの家庭科教育の研究・実践に関する変遷と、それに関与してきた学校長、ならびに家庭科教師たちの名簿をまとめ附表として添附した。

## お わ り に

以上、低学年からの家庭科教育の先進推進校である岐阜市立長良小学校について、特別活動などとの関連をみながらその変遷をみてきた。

それによると長良小学校では、教科は勿論、特別活動においても、子どものための生きた教育をめざして独自の特徴をもった研究と実践を積み重ねそれを発展させてきている。その陰には歴代の校長ならびに関係教師たちの並々ならぬ努力があり、高く評価される場所である。

長良小学校では昭和45年、吉岡校長の時代に新井規子家庭科主任はじめ家庭科教師の積極的な熱意と他教科教師の協力によって生活コースが誕生した。他の特別活動などとの調和をはかりながら、よりよい家庭生活のあり方を求めて、家庭科の内容を第1学年から第4学年までの生活コースに含めて意図的系統的に学級担任による指導が行われることになった。続いて昭和49年からは、教科としての家庭科を低学年から特設した。また、昭和52年からは再び生活コースに戻して指導するようになり、時間数は大幅に増え、しかも第5・6学年にも教科としての家庭科以外に年間20時間を生活面の指導に当てることとした。この時期はその実践における充実期であったと見受けられる。昭和55年以降はこれを学級生活一くらしーとして扱うこととし、年間25時間をそれに当て、学級生活一くらしーの中に家庭科教育も含めて行うことになった。

このように長良小学校における低学年からの家庭科指導は、当初は生活指導の核として、次には家庭科特設のかたちで、そして現在は学級指導一くらしーというようにその位置づけと時間数に変動はあったが、出発時の精神は受け継がれ、低学年からの生活指導の主要な指導項目として家庭科の指導が行われてきた。また、長良小学校におけるこのような実践を基調として岩野田小学校や島小学校にも受け継がれているのはまことによろこばしいことである。

家族や家庭生活の望ましいあり方についての指導は、家庭において両親や家族によってなされる家庭教育が大切なことは言うまでもない。しかし一方、学校教育においても教師による家庭生活に関する指導を系統的計画的に行い、両者が相まってはじめて健全な家庭人の育成が可能となるのではなかろうか。特に現代の家庭のさまざまな問題状況を思うとき家庭における家庭教育と、学校における家庭科教育のいっそうの充実と両者の関係を強く願うものである。

しかも学校における家庭科教育は現行のごとく、小学校第5・6学年からだけでなく、児童の発達段階に応じて小学校低学年から初歩的基礎的な事項についての指導を積み上げてより一層その効果をあげるよう願ってやまない。

過去10数年間意欲的に実践研究を続けてきた長良小学校における低学年からの家庭科教育のますますの発展を望むとともに他校においてもこのような実践が広く行われることを切望する。

この稿をまとめるに当たりご指導を賜りました本学大道寺純子教授に深謝いたします。また、資料提供などのご協力をいただきました新井規子、野村令子、杉山恵子、船坂恵子の各先生方に厚く御礼申し上げます。

附表 岐阜市立長良小学校における低学年家庭科指導と関係諸氏の年表（昭和44年～60年）

年 度	校 長	家 庭 科		低学年からの家庭科教育の推移
		主 任	家庭科教員	
昭和44年	吉 岡 勲	新 井 規 子	林 誠 子 武 藤 淑 子 横 山 か よ 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究意欲が高まり、家庭科では低学年からの家庭科教育について研究し、実践の必要を提言した</li> <li>生活コースを設置し、第1～4学年に週1時間（40分授業）、家庭科指導を含めて行うことになった。</li> <li>カリキュラムは長良小学校独自のものであった。</li> </ul>
昭和45年	〃	〃	西 垣 邦 子 武 藤 淑 子 日 比 野 藤 子	
昭和46年	大 前 保 次 郎	〃	〃	
昭和47年	〃	〃	西 垣 邦 子 鈴 木 勢 津 子 田 口 恵 子	
昭和48年	横 山 克 己	西 垣 邦 子	左 高 宣 子 鈴 木 勢 津 子 田 口 恵 子	
昭和49年	〃	〃	鈴 木 勢 津 子 左 高 宣 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活コースは低学年家庭科として教科に特設されることとなった。</li> <li>内容は衣食住および家庭と図書館利用、交通安全にわたり、生活コース当時の流れを受けついだものであった。</li> </ul>
昭和50年	〃	鈴 木 勢 津 子	森 み どり 左 高 宣 子	
昭和51年	〃	左 高 宣 子	野 村 令 子	
昭和52年	〃	野 村 令 子	原 淑 子 小 森 美 夜 子	
昭和53年	板 津 包 信	〃	〃	
昭和54年	〃	〃	〃	<ul style="list-style-type: none"> <li>低中学年家庭科を再び生活コースに戻した。生活コースの時間は、第1～4学年のほか、第5・6学年にも年間20時間を新しく位置づけた。</li> <li>担任の指導をさらに意図的、発展的にしていくために、学級指導一くらしが位置づけられ、低学年からの家庭科もそれに含めて指導することになった。</li> <li>時間は年間25時間となり、家庭科教育に関する指導時間は大幅な削減となった。</li> </ul>
昭和55年	〃	原 淑 子	杉 山 恵 子 野 村 令 子	
昭和56年	辻 太	杉 山 恵 子	野 村 令 子 船 坂 恵 子	
昭和57年	〃	〃	船 坂 恵 子 鷺 見 美 年 子	
昭和58年	〃	〃	〃	
昭和59年	〃	〃	〃	
昭和60年	高 橋 彰 太 郎	〃	船 坂 恵 子	

## 引 用 ・ 参 考

- (1) 山口弘子：聖徳学園岐阜教育大学紀要 No.12 p. 101～119, 1985
- (2) 吉岡 勲：岐阜市立長良小学校研究要録 第15号, 1965
- (3) あおぞら本質委員会：岐阜市立長良小学校研究要録 第15号, p. 5～7, 1965
- (4) 林 誠子：岐阜市立長良小学校研究要録 第15号（研究紀要）p. 34～66, 1965
- (5) 武藤淑子：               "               "               第16号 p. 41, 1970
- (6) いずみ本質委員会：岐阜市立長良小学校研究要録 第16号 p. 5～13, 1970
- (7) 新井規子：岐阜市立長良小学校研究要録 第17号（研究紀要）p. 3～29, 1971
- (8)       "       ：全国小学校家庭科教育研究会結成10周年記念誌 p. 35～37, 1971
- (9) みずのわの本質委員会：岐阜市立長良小学校研究要録 第17号, p. 7～19, 1971
- (10) 西垣邦子：岐阜市立長良小学校研究要録 第18号（研究紀要）p. 8, 1972
- (11) 鈴木勢津子：       "       "       第20号 p. 69, 1974
- (12) 左高宣子, 野村令子：岐阜市立長良小学校研究要録 第22号 p. 97～101, 1976
- (13) 原 淑子：岐阜市立長良小学校研究要録 第23号（家庭部要項）p. 1～4, 1977
- (14) 小森美夜子：       "       "       "       (       "       ) p. 5～8, 1977
- (15) 原 淑子：       "       "       第26号 p. 117～136, 1980
- (16) 杉山恵子：       "       "       第27号 p. 175～196, 1982
- (17)       "       ：       "       研究報告 p. 1～13, 1982
- (18) 鷺見美年子：       "       家庭部内研資料 p. 1～12, 1984
- (19) 船坂恵子：       "       研究要録 第29号 p. 91～98, 1985
- (20) 杉山恵子：       "       "       "       p. 99～102, 1985

岐阜市立長良小学校家庭科カリキュラム No.1～No.5

長良小学校百年の歩み, 1967

長良の教育, 1968～1977